

(ひと) 伊藤綾さん：5時退社でヒット企画を生む「ゼクシィ」編集長

朝日新聞 2013年9月3日

雑誌が部数減と広告収入減に苦しむ時代。でも創刊20年を迎えた結婚情報誌「ゼクシィ」は広告が堅調で、ページ数が約2千、重さ約4キロを誇る。52人の編集部員を率い、ヒット企画を次々生み出してきた。案を練り、形にするのは午後5時に退社した後の時間だ。

今年4月号の付録「花嫁すぎるゴム手袋」は、皿洗いで使うゴム手袋のデザインを、花嫁がつけるレースの手袋風に可愛くしたら家事も楽しくなる、と考えた。昨年9月号の「乙女すぎるドライバーセット」も、鍋のゆるんだ取っ手のねじを締めた経験がもとになった。いずれもネットやテレビで話題になり売れ行きも好調だった。

元々は仕事中毒人間。契約社員として編集部に入り、先輩花嫁によるお金の助言特集などで部内の賞を8期連続で受けた。正社員を経て、2006年に編集長に。終電で帰る日も少なくなかった。

転機は08年の出産。心臓のポンプ機能が下がる周産期心筋症になり、一時は死をも覚悟した。双子の男児を育てながら、「新たにもらった人生。大切な人との時間を大事にしたい」と強く思った。育休明けから原則定時退社にした。

編集部ではかつて0人だったママが今や副編集長3人を含む7人に。「**一人の女性の生き方が社会の空気を変え、やがて国全体をも変えていく**」。その一人になればいいとひそかに思っている。

(赤田康和)

*

いとうあやさん(40歳)